

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 8 月 26 日現在

機関番号：26201
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：23593355
研究課題名(和文)セクシュアリティの家族支援に関する研究

研究課題名(英文)Study on family support of sexuality

研究代表者

三木 佳子 (Yoshiko, Miki)

香川県立保健医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：60584175

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：保健医療者は障害や疾病がある人々が抱える性の悩みへの対応に難渋している。人々の性(セクシュアリティ)が捉えにくいことが、支援に結びつかない要因でもある。この研究の目的は、セクシュアリティの定義を明らかにすることと、支援に活用できる測定用具を開発することである。

まず、概念分析の手法を用いて定義を明らかにした。次に、炎症性腸疾患患者を対象に調査を実施した。その結果、セクシュアリティの定義と測定用具を開発することができた。

研究成果の概要(英文)：Healthcare providers have difficulties in responding to sexual disorders among patients with disabilities or illnesses. People's sexuality being a complex concept and difficult to assess is regarded as a key factor in why intervention is not forthcoming. The aim of this study was to clarify the definition of sexuality, and develop tools to enable intervention.

First, the method of concept analysis was utilized to clarify the definition. Next, a survey of patients with inflammatory bowel disease was conducted. As a result, sexuality could be clearly defined and measurement tools developed.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：セクシュアリティ 尺度開発 関係性 家族機能

1. 研究開始当初の背景

障害や疾病を抱えた人々の中には、性に関連した問題に悩みを抱えている人がいるが、報告数は極めて少ない。一方、保健医療者は触れてはいけないという考え方と性の問題の捉え方の知識不足から具体的な支援に踏み切れていないのが現状である。患者と保健医療者の双方の抵抗感と保健医療者の知識不足が性の問題解決を遷延させている。諸外国においても性に関連した報告は多くはないが、わが国は極めて少ない。

保健医療者の知識不足の原因には、わが国の人間の性としてのセクシュアリティの定義が曖昧であることが考えられる。セクシュアリティの定義が捉えやすいものになり、さらに臨床現場でセクシュアリティの測定用具があると、支援の活性化に繋がると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの定義を明らかにし、セクシュアリティを支援に活用可能な測定用具を開発することである。

3. 研究の方法

研究1：わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの操作的定義の開発

【方法】概念分析は、実証主義に基づく Walker & Avant の概念分析を参考にした。

【対象】国語辞典、社会学事典、性科学辞典、医学大事典、看護学事典などの辞書、看護基礎教育の教科書及びわが国の保健医療領域における存在するセクシュアリティの特徴を32件の文献であった。

研究2：わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの満足尺度の開発

《研究2-1：表面的妥当性の検討》

【方法】

概念分析から抽出された経験的指示対象には、概念分析で得られた臨床的指示対象は、個人の性的特性には、性的欲求が高まる、性的衝動を感じる、異性として好ましく思う、性は人生にとって重要である、性生活は大切で必要と思う、大切なコミュニケーションの手段である、などがあつた。性的対象者の相互作用では、性的感情や性的欲求について伝え合う、悩んでいることを理解してもらい、考えや気持ちを相手に伝える性的対象者の満足や欲求を理解しようとする、日常生活において相手の気持ちを重視するなどがあつた。これらから、質問項目を整理してセクシュアリティ満足尺度原案を作成した。対象者に、この原案を回答していただき、回答後、「意味がわからない表現はないか」「どのような表現が答えやすいか」「あなたにとってのセクシュアリティとは何か」「質問項目はセクシュアリティを現わしているか」などについて質問し、

半構造化面接を実施した。インタビュー内容をICレコーダーに録音し、逐語録を作成した。逐語録の内容を比較分析した。

【対象】

医療機関に通院治療をしており、日常生活は自立して送っている患者6名、保健医療者6名である。患者の疾患名は、慢性腎不全・炎症性腸疾患・消化器がんで、男性3名、女性3名であつた。保健医療者：6名の専門領域は、皮膚・排泄ケア認定看護師、保健師・臨床心理士・内科医師・外科医師・泌尿器科医師であつた。さらに、研究者4名、大学院の研究生3名にもセクシュアリティ満足尺度原案の解答後意見を聞き原案を洗練した。

《研究2-2：本調査》

【方法】自記式無記名調査

【対象】

思春期が発病し難治性の疾患である炎症性腸疾患患者、20歳以上80歳未満のIBD患者とその配偶者・恋人などの性的パートナー

【調査の手続き】

IBD患者が属する自助団体の代表者に依頼し、各支部の責任者に承諾が得られた支部に配布した。また、IBD患者が通院する消化器系学会に属する会員に推薦された医療機関の中で、研究協力に同意が得られた施設に通院する外来患者にも配布した。回収は、プライバシーを考慮し、全て研究者に直接郵送とした。

IBD自助団体の特定の地域に対して安定性を確認するための1回目と2回目セクシュアリティ満足尺度原案と併存妥当性を確認する夫婦関係性満足尺度を同封し、2回目は2週間後に回答し同時に回収した。

【調査内容】基本属性(性別・年齢・職業・学歴、疾患名など)、主観的健康状態、主観的關係性、性活動、性機能障害の有無、家族の性に関する考え方、セクシュアリティ満足尺度原案、夫婦関係性満足尺度、家族環境評価尺度

【統計的分析】

統計解析ソフトはSPSS for Windows(ver.21)とAmos(ver.22)を使用した。

4. 研究成果

研究1：わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの操作的定義の開発

セクシュアリティがタイトルに含まれる文献では、セクシュアリティをどのような意味で用いているかを解釈した結果《個人の性的特性》と《性的対象者との相互作用》の2つの定義属性が抽出された《個人の性的特性》には3つの要素、《性的対象者との相互作用》には5つの要素があつた。すなわち、概念分析により抽出されたわが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの

操作的定義は『個人の性的特性と性的対象者との相互作用であり、個人の性的特性には、性の関心度、性の重要度、男性性・女性性の評価が含まれ、性的対象者との相互作用には、共に過ごすこと、言語的コミュニケーション、スキンシップ、相互の思いやり、性行為のありさまが含まれる』とすることができた。また、測定用具の開発に繋げるために、それぞれの要素の実在性のある経験的指示対象を整理した。

わが国の保健医療領域において直感的に捉えにくく、曖昧な概念であったセクシュアリティを概念分析することで、その操作的定義を明らかにした。操作的定義はセクシュアリティの理解を容易なり、臨床家の誤解や混乱の解決に繋がると考える。要素の定義用いることで臨床家はセクシュアリティのアセスメントが容易になると考えられる。

なお、この内容は、論文名「わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの概念分析」として 2013 年に日本看護科学学会誌 Vol.33No.2 に掲載された。

研究2：わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの満足尺度の開発

【セクシュアリティの満足尺度原案】

表面的妥当性の面接調査の結果、32 項目の質問項目で構成される原案を洗練した。

【調査回収率】

IBD 自助団体での調査は回収率 44.0% (回収数 74/依頼部数 168) であった。中国・四国・近畿・九州地方の 7 病院の調査では、回収率 22.6% (回収数 52/依頼部数 230)、合計回収数 126/依頼部数 398 回収率 31.7% であった。

【回答者の概要】

IBD と診断を受けている患者は 126 名 (男 69 名 女性 56 名、不明 1 名) から回答が得られた。平均年齢は、47.4 (SD11.0) 歳 (最高 74 歳 最少 24 歳) であった。疾患名は、潰瘍性大腸炎が 72 名、クローン病が 48 名であった。体調については「よい」が 97 名 (77.0%)、「悪い」26 名 (20.7%) であった。症状の経過では「よい」が 89 名 (70.7%)、「悪い」が 30 名 (23.8%) であった。関係性については「よい」が 109 名 (86.5%)、「悪い」が 12 名 (9.5%) であった。SEX 回数は、「月に 1 回以上」が 42 名 (33.3%)、「2 カ月に 1 回」が 10 名 (7.9%)、「半年に 1 回」が 11 名 (8.7%)、「1 年に 1 回」が 8 名 (6.3%)、「スキンシップのみ」が 16 名 (12.7%) であった。性機能障害は、「ある」が 53 名 (42.1%)、「ない」が 60 名 (47.7%) であった。家族の性に関する考え方では「寛容」が 57 名 (65.2%)、「寛容でない」62 名 (49.2%) であった。

【統計的分析結果】再テスト法による安定性では、スピアマン相関係数で .929 強い相関を示した。また、夫婦関係性満足尺度との併存

妥当性は、スピアマン相関係数 .929 で強い相関が示された。内的一貫性としては、尺度全体 Cornbrash 's が .98 であり強い相関を示した。

構成的概念の妥当性を検討するために、まず天井効果とフロア効果を確認したが削除する項目はなかった。32 項目の探索的因子分析を行い、スクリーンによる固有値の変化と解釈の可能性から 8 因子の構造が妥当であると考えた。概念分析の結果との相違点について検討した結果、言語的コミュニケーションには性的な内容と日常生活の話題とは因子が分かれることがわかった。このことを確認した後、確認的因子分析を行い、モデルを作成した。モデルの適合度は、CFI が 0.93、RMSEA = 0.089 であり適合が示された。これらにより、セクシュアリティ満足尺度の妥当性と信頼性は検証された。

わが国では、性的なことが含まれる調査は、回答の抵抗感から回収率が低く調査が懸念されていると言われている。今回の調査でも回収率は低くデータ収集に難渋し、統計的分析の妥当数に至っていない。今後も継続して調査を実施し尺度の妥当性を高めるためにはさらなる検討の必要性がある。

また、本調査では、家族の性活動や性に關する考え方なども調査した。これら进行分析することで性活動の実態や生理的要因、環境要因と性活動、セクシュアリティの関連をみることができ、ダイナミックなモデルを作成できる可能性がある。さらに調査の継続と分析・検討を行うことが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

1) 三木佳子、法橋尚宏、前川厚子：わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの概念分析 日本看護科学学会誌 Vol.33 No.2 P.70-79 2013

〔学会発表〕(計 2 件)

1) 三木佳子、法橋尚宏、前川厚子：わが国の保健医療領域における現代のセクシュアリティの概念、第 29 回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 Vol.28 No.1 2012 January

2) Yoshiko Miki, Naohiro Hohashi : Examination of Query Items Related to Personal Sexuality in Japan's Medical and Health Care Domain 11th International Family nursing Conference 2013 June 19-22 (Hyatt Regency Minneapolis Minnesota USA)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況（計 0 件）

6 . 研究組織

(1)研究代表者

三木佳子（香川県立保健医療大学）
研究者番号：60584175

(2)研究分担者

法橋尚宏（神戸大学大学院保健学研究科）
研究者番号：60251229

(3)連携研究者

前川厚子（名古屋大学医学系研究科）
研究者番号：20314023